

## 災害研教職員を対象とした「AED 使用講習会(第 7 回)」を実施しました (2023/11/6)

テーマ：質の高い胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）、119 番通報  
 場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2023 年 11 月 6 日(月)、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所において「災害研 AED 使用講習会（第 7 回）」を開催し、当研究所教職員 12 名が受講しました。講師として東北大学病院の須藤剛志先生（看護師）、総合地域医療研修センター今井浩之先生（救急救命士）を迎え、当研究所の佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が講習サポートを行いました。コロナ禍による 4 年間の中断を挟んで久しぶりの実開催となり、所内通算 7 回目の開催となりました。

当講習会は、アメリカ心臓協会(AHA)の Family & Friends CPR を実践し、NPO 法人日本 ACLS 協会より修了証が発行される本格的な講習会です。①質の高い胸骨圧迫、②AED 使用、③119 番通報について、それぞれウェブ教材視聴後に実技講習を繰り返しました。傷病者役のシミュレーター上に圧迫深度・回数の過不足を測定するモニターを設置し、受講者は質の高い胸骨圧迫を実施できているか確認しながら技術を修得しました。総まとめとして④傷病者の発見から接触・意識の確認・応援要請・AED、119 番通報の依頼・呼吸確認・胸骨圧迫・AED 使用を一連で実践し、約 1.5 時間の講習を終了しました。楽しい雰囲気ながらも、人が倒れた際のリアルな対応に緊張の面持ちで受講者は実技を繰り返しました。「雨が降っていた際の対応は?」「女性が倒れていた際はどのようにするのか?」など、受講者はその都度疑問点を解消しながら学習を進めました。また、1 分間の胸骨圧迫ですら息が切れるほどの労力であることを玉の汗をかきながら経験し、意識を失った人を助けるには迅速な対応と多くの人手が必要なことを実感していました。

当研究所ではこのような実践的な教職員研修をこれからも継続していきます。



致死性不整脈について  
説明を受ける教職員



ウェブ教材で胸骨圧迫の  
最適ナリズムを学ぶ



胸骨圧迫の深度・回数を測定中。  
額に汗するほどたいへん



AED 使用方法について  
解説する須藤先生・今井先生



協力して胸骨圧迫・  
AED パッド装着を行う



修了証を片手に須藤先生・  
今井先生と参加者全員で